令和４年度　**事業報告**

TOMORROW'S KYOTO

Cultural Heritage Platform

2022

目 次

令和4年度(2022年度) 明日の京都 文化遺産プラットフォーム役員一覧 …… 1
第12回フォーラム「日本の文化は自然の恵みから ～伝統材料・道具とそれを支える人々の未来～」 …… 2
第11回世界遺産「古都京都の文化財」ネットワーク会議 …… 3
文化遺産保存計画研究会 …… 3
明日の京都講座「西本願寺」 …… 4
京都・文化遺産アーカイブプロジェクト …… 4
文化遺産の危機管理研究会 …… 5
無形文化遺産シンポジウム「笑いは和らい ～ことば遊びと狂言～」 …… 6
子ども文化教室「京の五節句を楽しむ」 …… 7
新春 子どもお茶会 …… 7
京都世界遺産PBL科目 …… 8
明日の京都インターンシップ …… 8
羅城門の再建に向けて …… 8
令和4年度(2022年度) 主な活動一覧 …… 9
令和4年度(2022年度) 明日の京都 文化遺産プラットフォーム企画調整委員一覧 …… 10

令和4年度(2022年度) 明日の京都 文化遺産プラットフォーム 役員一覧 ＊敬称略

役職	氏名	所属・役職等	役職	氏名	所属・役職等
会　長	**松浦　晃一郎**	第８代ユネスコ事務局長	理　事	**田中　誠二**	公益社団法人京都府観光連盟会長 公益社団法人京都市観光協会会長
副会長	**土岐　憲三**	立命館大学特別研究フェロー		**田中　恆清**	京都府神社庁長 石清水八幡宮宮司
	冷泉　貴実子	公益財団法人冷泉家時雨亭文庫 常務理事		**塚本　能交**	京都商工会議所会頭
	高見　茂	京都光華女子大学学長		**仲谷　善雄**	学校法人立命館総長
理　事	**赤松　玉女**	京都市立芸術大学理事長・学長		**西脇　隆俊**	京都府知事
	有馬　頼底	一般財団法人京都仏教会理事長 臨済宗相国寺派管長		**松村　淳子**	宇治市長
	池坊　専好	華道家元池坊次期家元		**湊　長博**	京都大学総長
	井上　八千代	京舞井上流五世家元		**宮城　泰年**	一般財団法人京都仏教会常務理事 聖護院門跡門主
	大西　祐資	株式会社京都新聞社代表取締役社長 主筆		**村田　純一**	公益財団法人京都文化交流 コンベンションビューロー理事長
	朧谷　寿	同志社女子大学名誉教授		**村田　大介**	一般社団法人京都経済同友会 代表幹事
	門川　大作	京都市長		**吉田　孝次郎**	公益財団法人祇園祭山鉾連合会顧問
	金田　章裕	京都府立京都学・歴彩館館長		**若林　卯兵衛**	株式会社若林佛具製作所 取締役相談役
	黒坂　光	公益財団法人大学コンソーシアム京都 理事長	監　事	**岡田　博邦**	一般社団法人京都銀行協会 元専務理事
	佐藤　禎一	元ユネスコ日本政府代表部 特命全権大使		**坂口　博翁**	一般財団法人京都仏教会常務理事 別格本山覚勝院名誉住職
	千　宗室	茶道裏千家家元			

第12回
フォーラム

「日本の文化は自然の恵みから ～伝統材料・道具とそれを支える人々の未来～」

■日　　時：令和４年（2022年）10月30日（日）14時00分～16時45分
■会　　場：立命館朱雀キャンパスホール、オンライン配信（YouTubeライブ）
■定　　員：200名程度（申込：276名）、オンライン配信（580名）
■開会挨拶：「ユネスコ世界遺産条約50周年に寄せて」
松浦 晃一郎 氏（明日の京都 文化遺産プラットフォーム会長・第８代ユネスコ事務局長）
■話題提供：松田 聖 氏（一般社団法人伝統技術伝承者協会理事長・有限会社松田銹屋八代目）
堤 卓也 氏（株式会社堤淺吉漆店専務取締役・一般社団法人パースペクティブ共同代表）
森 道彦 氏（京都国立博物館研究員）
■日本の酒造り唄：月桂冠酒唄保存会
■パネルディスカッション：松田 聖 氏／堤 卓也 氏／森 道彦 氏　[進行] 森田 瑞穂 氏（一般社団法人 Team D.I. 代表理事）
■閉会挨拶：土岐 憲三 氏（明日の京都 文化遺産プラットフォーム副会長・立命館大学特別研究フェロー）

松浦 晃一郎 氏

松田 聖 氏

堤 卓也 氏

森 道彦 氏

森田 瑞穂 氏

土岐 憲三 氏

趣旨

古来から人々は材料や道具を用いて、自然の力を借りながらものづくりの技術を高めてきました。ものや技術は伝播するなかで、世界のどこにもない独自の採取方法や加工方法、道具の形状が生まれ、人々の知恵と技とともに、私たちの誇りである伝統文化を創り上げてきたのです。

しかし、現代では伝統文化にかかわる産業は危機に陥っており、担い手の減少に合わせて、材料や道具も、失われそうなものやすでに失われてしまったものがあります。

育まれ、受け継がれてきた材料やものづくりの方法。これらには柔軟性、環境に対する優しさ、なにより美しさがあります。今、その数々ある価値を共有し、新たなチャレンジの道を探りながら、未来に向けてあたらしい一歩を踏み出す時期です。未来への一歩、わたしたちは何ができるかを考えるためにフォーラムを開催しました。

当日の内容

2022年、ユネスコ世界遺産条約の採択から50年を迎えました。この節目にあたって、当会会長の松浦晃一郎より、これまでの経緯や日本の状況、果たしてきた役割について主催団体代表挨拶を兼ねてお話がありました。

その後、フォーラム後半のパネルディスカッションに向けた話題提供として、3名のパネラーが順に登壇。

京都国立博物館研究員の森道彦氏からは、掛軸を例に文化財の維持や修理に使われる伝統的な材料の紹介があり、京都は文化財修理の基盤都市である一方、それらを産業構造として維持することの難しさについてお話がありました。

有限会社松田銹屋八代目の松田聖氏からは、国宝・重要文化財の修理に不可欠な伝統技術の向上や材料を確保するために2010年に設立された伝統技術伝承者協会についての概況。和紙・木工・漆工・金工などの各分野が抱える問題点についてお話があり、株式会社堤淺吉漆店専務取締役の堤卓也氏は、漆の魅力、漆を取り巻く課題、漆と工芸を未来につないでいくために堤氏が取り組んでいる数々のプロジェクト事例について紹介がありました。

続いて、月桂冠酒唄保存会の皆さんによる「日本の酒造り唄」が披露され、仕事唄に込められた職人さんの熱い想いと気迫溢れる唄声が観客を魅了しました。

その後は、話題提供で登壇した森氏・松田氏・堤氏が再登壇し、パネルディスカッションを実施。進行は、一般社団法人Team D.I.代表理事の森田瑞穂氏が務めました。“長く続いてきたことで変化してきたことは何か”という問いに対して、松田氏は、材料・道具・薬品が減り、行政による規制も厳しくなる中で手に入らなくなった材料があることを紹介。堤氏は、漆の95％が中国からの輸入。外国産と国産との成分の違い、国産でも産地や漆を取った人によって漆の質に違いがあることに触れ、森氏は、文化財の修復には元々使用されている材料と、産地や地域が近い材料が必要であり、それらを残し続けていくことの重要性を述べました。以降も、登壇者がそれぞれの取り組みや考えを共有し、互いに質問をし合うなど、日本の伝統文化を支える三人の熱気溢れる討論が続きました。

最後に森田氏が、受け継がれてきた伝統技術やものづくりを後世に繋げていくために、生きた文化・循環をつくることを考えていきたいと述べ、パネルディスカッションを締めくくりました。

終わりに、閉会の挨拶として当会副会長の土岐憲三が登壇。来場者・オンライン視聴者ならびに、登壇者の方々への感謝の言葉が述べられ、第12回フォーラムは幕を閉じました。

第11回 世界遺産「古都京都の文化財」ネットワーク会議

■日　　時：令和５年（2023年）４月18日（火）13時30分～15時30分　※2月15日延期分
■会　　場：相国寺承天閣美術館 講堂
■開 催 挨 拶：松浦 晃一郎 氏(明日の京都 文化遺産プラットフォーム会長)
■分科会報告：増井 正哉 氏（世界遺産ネットワーク会議座長、京都大学・奈良女子大学名誉教授）
■基 調 講 演：「世界文化遺産と日本の貢献 - 奈良文書と京都ビジョンをめぐって」
　　西村 幸夫 氏（國學院大學観光まちづくり学部教授）
■意 見 交 換
■閉 会 挨 拶：土岐 憲三 氏（明日の京都 文化遺産プラットフォーム副会長）
■司 会 進 行：長澤 香静 氏（世界遺産ネットワーク会議副座長、一般財団法人京都仏教会事務局長）

世界遺産「古都京都の文化財」をはじめとする社寺城が一堂に集い、それぞれが抱える共通の課題について情報共有や課題解決の糸口を探る場として団体発足当初より開催しています。

今年度は「継承」をテーマに据え、有形と無形のそれぞれの観点から継承にかかわる問題を捉えるために、本会議の前に二度の分科会を開催しました。

分科会は「明日の京都」内の文化遺産保存計画研究会と連携して開催したもので、世界遺産ネットワーク会議当日には、座長の増井正哉氏より、分科会の内容について報告・共有が行われました。

基調講演では、國學院大學観光まちづくり学部教授の西村幸夫氏より、日本の木造建築の修理技術が世界遺産の国際基準に大きな影響を与えた奈良文書と、世界遺産を守るために地域コミュニティの必要性を説いた京都ビジョンについて実例をもとにお話いただきました。また、京都のまちづくりが地域のコミュニティを大事にしていることを挙げ、明治以降、京都の歴史を守りながら新しいまちづくりを行った京都の価値を世界に訴えてもよいのではないかと述べられました。

参加者からは、地域のコミュニティや出入り業者の存在の重要性を改めて感じていることや、社寺城だけではなく、学識者も加わり絶えず意見交換ができる場を作り、次世代につなげていきたいという声が寄せられました。また、地域社会のコミュニティのなかに拝観者も取り込んでいくなど、コミュニティの新たな在り方も今後考えていけるのではないかといった意見が出されました。

文化遺産保存計画研究会

〈第1回分科会〉
■日　　時：令和４年（2022年）11月21日（月）10時30分～12時00分
■会　　場：京都府神社庁神社会館２階 講堂、オンライン（Zoom）
■挨　　拶：中嶋 茂博 氏(京都府神社庁参事)
　　増井 正哉 氏(大阪くらしの今昔館館長、京都大学・奈良女子大学名誉教授)
■講　　演：「文化・文化財を継承して行くこと― 修理技術者の視点から ―」
　　平井 俊行 氏（八幡市立松花堂庭園・美術館館長）

平井 俊行 氏

レポートはこちら

〈第2回分科会〉
■日　　時：令和５年（2023年）１月30日（月）10時30分～12時00分
■会　　場：立命館朱雀キャンパス６階601東会議室、オンライン（Zoom）
■挨　　拶：増井 正哉 氏(大阪くらしの今昔館館長、京都大学・奈良女子大学名誉教授)
■講　　演：「伝統文化継承についての一試論　― 祭礼・民俗行事継承に関わる実践紹介 ―」
　　村山 弘太郎 氏（京都外国語大学国際貢献学部グローバル観光学科准教授）

村山 弘太郎 氏

レポートはこちら

2年以上にわたるコロナ禍は、文化遺産にとっても困難な時期でした。昨年の「世界遺産『古都京都の文化財』ネットワーク会議」では文化を継承していくことの難しさが浮き彫りになりました。令和4年度(2022年度)は、昨年浮き彫りになった問題をより深く考えるために、世界遺産ネットワーク会議に向けて二度、分科会の開催を試みました。

第1回は、有形文化遺産の継承をテーマに、八幡市立松花堂庭園・美術館館長で30年もの長い間、文化財建造物の修理に携わってきた平井俊行氏を講師招聘。第2回では、無形文化遺産をテーマに、都市祭礼に関する歴史学と民俗学を専門分野としてフィールド研究でも多くの事例を持つ京都外国語大学国際貢献学部グローバル観光学科准教授の村山弘太郎氏を講師としてお招きしました。

明日の京都講座「西本願寺」

■日　　時：令和５年（2023年）２月16日（木）13時00分～15時00分
■会　　場：龍谷山本願寺　聞法会館３階 多目的ホール
■申 込 者 数：174名（内、一般165名、学生９名）
■参 加 者 数：92名（内、一般84名、学生８名）
■挨　　拶：安永 雄玄 師（龍谷山本願寺執行長）
■講　　演：「京都文化を守り伝えた西本願寺 ～豊臣秀吉とのかかわりを探る～」
　　岡村 喜史 師（本願寺史料研究所上席研究員）
■特 別 拝 観：阿弥陀堂・御影堂・書院・飛雲閣・唐門

安永 雄玄 師

岡村 喜史 師

「明日の京都講座」は、文化財所有者が語る連続講座形式で開催しています。2011年に上賀茂神社で開催して以降、今回で13回目を迎えました。13回目の舞台は「西本願寺」。コロナ禍による開催延期が続き、当初計画からおよそ3年後の開催でしたが、定員を大幅に上回る申込みがありました。

開催挨拶では、龍谷山本願寺執行長の安永雄玄師より、宗祖である親鸞聖人の生涯、立教開宗した経緯について紹介があり、後の講演で文化財の価値、保存や活用、景観問題についても理解を深めてほしいとお話がありました。

続いて、本願寺史料研究所上席研究員の岡村喜史師が講演し、西本願寺が六条堀川の現在地に至るまでの経緯や、本願寺が東西に分かれることになったきっかけなどをお話いただきました。また、西本願寺の建造物の特徴についても言及があり、西本願寺の建造物が国宝の指定を受け、世界遺産にも選定されたのは桃山時代を彩った建物が多く残り、日本の伝統文化を代表する伝統建築として注目されたことが一因であると述べられました。

その後、参加者は3班に分かれ、阿弥陀堂・御影堂・書院・飛雲閣・唐門を巡り、岡村師と本願寺の僧侶の方々による説明を聞きながら参拝と見学をしました。参加者からは、修復を終えたばかりの唐門の見学、書院・飛雲閣など普段は公開されていない国宝を目の当たりすることができ、貴重な経験をすることができた。その一方で、それらを保存していくことの大変さを感じたといった声が寄せられました。

京都・文化遺産アーカイブプロジェクト

高精細４K：これまでの収録実績・映像作品

・元離宮二条城　・醍醐寺（真言宗醍醐寺派総本山醍醐寺）　・高山寺
・教王護国寺（東寺）　・龍安寺（臨済宗妙心寺派大雲山龍安寺）
・天龍寺（臨済宗天龍寺派大本山天龍寺）
・上賀茂神社（賀茂別雷神社）賀茂祭・式年遷宮Ⅰ
・上賀茂神社（賀茂別雷神社）賀茂祭・式年遷宮Ⅱ
・世界遺産「古都京都の文化財」　・元離宮二条城ダイジェスト版
・東寺の四季　・醍醐の桜　・伊藤若冲生誕300年記念作品 若冲 祈りのかたち
・未来（あす）への歩み―京商家杉本家の慣らいと暮らし
・和歌（やまとうた）の型と美―冷泉家時雨亭文庫　・茶道裏千家

上賀茂神社（賀茂別雷神社）

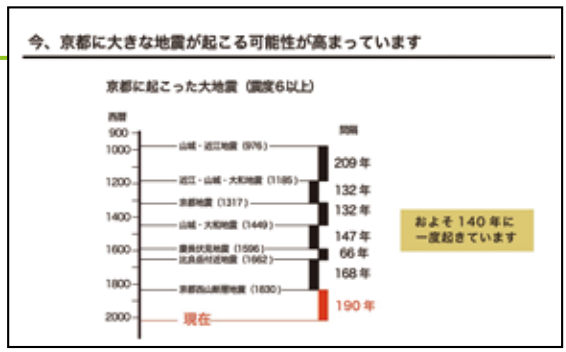
龍安寺

裏千家今日庵

文化遺産の危機管理研究会

災害から京都を守るためにできること

文化遺産の危機管理研究会は、文化遺産を自然災害や人為災害から守るための施策を検討・具体化していくことを目的に平成29年(2017年)に発足しました。自然災害のなかでも大規模な直下型地震が京都を襲った際には同時多発火災が発生すると想定されます。その被害を減らすため市民や行政による「備え」を検討し、提案しています。



長期計画　京都盆地復水計画

地震による大規模な火災の脅威に対する備えとして、自然流下水を街中に通水する「京都盆地復水計画」を提案しています。自然流下水を防火用水・災害用緊急用水として活用するだけでなく、水辺の親水空間として市民の方々へ憩いの場を提供するなど、多様な場面での活用が期待されます。

令和4年度(2022年度)は、科学技術研究費助成事業の採択を受け、火災から木造文化都市を守る歴史的な水利環境の再生に関する研究を進めています。京都市内の地震火災時の対策として、消防車と連携し、河川などの自然水利を利用した消火活動が行えるか調査しました。

スロープ幅計測

スロープ上部の障害物までの高さ計測

水源と取水地点の特定

各河川に対して実施した現地調査から、大量の水を有する河川における取水地点を特定

鴨　川

鴨川に設置されているスロープについて、消防車両の通行可否を確認するために現地で計測調査を実施した。

〈調査項目〉
1 スロープ幅　2 スロープ上部の障害物までの高さ
3 車道からスロープへの進入可否　4 スロープから河川敷への進入可否

スロープのアクセス性評価基準と該当するスロープ数

評価	通行可能車両	車両寸法(cm)	スロープ数
S	長距離送水車	250×380	31
A	ポンプ車(CD-2)	220×280	15
B	ポンプ車(CD-1)	190×270	10
C	なし		53
合計			109

鴨川以外の河川

- 堀　川：消防ピット、堰板が設置されている箇所
- 白　川：水面に接近するための階段が設置されており、5.5m以上の道路に接する箇所
- 高瀬川：堰板が設置されている箇所
- 西高瀬川：三条坊町公園
- 琵琶湖疎水：沈砂池が設置されている箇所

短期計画　天水バケツプロジェクト

雨水を防災・生活・景観に活かす雨水活用計画「天水バケツプロジェクト」の推進と普及に取り組んでいます。このプロジェクトは、誰でも気軽にはじめることのできる雨水活用型の火災対策で、バケツに貯めた雨水をいざという時の初期消火に役立てることによって、火災の脅威から人命と文化財を守ることが目的です。初期消火のほか、植栽の水やりや掃除など日常の生活にも活用することができる環境や生物にも優しい仕組みであることが特長です。

令和4年度(2022年度)は、一般家庭への普及を目指し、プロジェクトの認知度向上と需要・課題把握を目的にアンケートを実施。希望者には雨水を取水するためのキットのサンプルを配布しました。また、京エコロジーセンターの協力のもと、天水バケツのデモ機展示、環境ボランティアスタッフを対象としたワークショップを開催したほか、研究会の立命館大学・金度源先生ゼミと連携し、大学生・大学院生が新たな天水バケツを考案しました。

学生・院生考案の天水バケツ

ワークショップの様子(解説)

ワークショップの様子(樋への穴あけ)

無形文化遺産シンポジウム

「笑いは和らい ～ことば遊びと狂言～」

■日　　時：令和5年（2023年）3月11日（土）14時00分～16時10分
■会　　場：立命館朱雀キャンパスホール、オンライン配信（YouTubeライブ）
■申 込 者 数：会場491名、オンライン1057名
■会場参加者：380名
■ライブ配信最大同時視聴者数：195　再生回数：2,222回（3月末時点）
■合　　唱：「京のわらべ歌」　みやこ・キッズ・ハーモニー
■講　　演：「日本の歌のなかのことば遊び」　小野 恭靖 氏（大阪教育大学教育学部教授）
■狂　　言：「口真似」茂山 逸平 氏（大蔵流狂言師）
■クロストーク：小野 恭靖 氏／茂山 逸平 氏　［進行］松尾 翠 氏（元フジテレビアナウンサー）
■閉 会 挨 拶：山本 壯太 氏（元古典の日推進委員会ゼネラルプロデューサー）

小野 恭靖 氏

茂山 逸平 氏

松尾 翠 氏

山本 壯太 氏

趣 旨

日本語は、世界の言語のなかでも特に語彙が多いと言われています。日本人は長い歴史のなかで、いろいろな表現を使いながら“ことば”を大事に育み、伝えてきました。

今回のシンポジウムの主な対象は親子。みんながゆかいな気持ちになることばの文化に焦点を当て、昔から庶民に親しまれてきた「ことば遊び」や「わらべ歌」の概説や合唱。その時代その時代に“笑い”を届け続けてきた笑いの代表格、狂言を通じて、楽しみながら和の文化の魅力に触れる機会とするために開催しました。

当日の内容

京都を拠点に活動する子ども合唱団「みやこ・キッズ・ハーモニー」による、わらべ歌で開会。華やかな浴衣姿の子どもたちの元気な歌声が会場に響きました。

その後、大阪教育大学教育学部教授の小野恭靖氏が「日本の歌のなかのことば遊び」と題して講演。昔の日本人の遊び心が表れた多数の歌の紹介があり、それらに込められた意味や遊び方についてお話いただきました。ことばや歌は日本人が大切にしてきた無形文化遺産であり、人々の生き方を覗き見ることができる非常に面白いもの。小野氏は、多くの人にその面白さを知ってほしいと述べ、来場者・視聴者がリアルタイムで参加できるwebクイズを交えながら楽しく、ことば遊びを学びました。

次に、大蔵流狂言師の茂山逸平氏による狂言の見方の解説と実演が行われました。解説では、狂言は600～700年前から嗜まれ、当時の人たちにとっては現代のお笑いのようなもの。ゆっくり大きな声で話すことや大げさな演技は、マイクやホールのような会場が無い時代でも大勢の観客に伝えるために考えられた演出。特徴的な笑い方や歩き方についても子供たちが理解しやすいように、身振り手振りと現代的な例えで、面白おかしく解説いただきました。　その後に、狂言「口真似」の実演があり、会場は子どもたちの笑い声に包まれました。

シンポジウム後半は、小野氏と茂山氏のお二人に元フジテレビアナウンサーの松尾翠氏が進行役として加わり、クロストークを実施。ここでもリアルタイム参加のwebクイズを使用し、狂言に登場する動物の奇妙な鳴き声クイズ、文字を合わせて作られる漢字クイズ、ことばのダジャレを楽しむ無理問答クイズなどが出題されました。

子どもたちへのメッセージとして小野氏は、ことばや歌のように物質的な形がないものにこそ、深い心が宿っているということを理解し、それらに関心を持ってほしいと述べ、茂山氏は伝統芸能・古典芸能は難しいと感じて二の足を踏みがちになると思うが、まずは娯楽だと思い気楽に親しんでほしいと話されました。

最後に、元古典の日推進委員会ゼネラルプロデューサーの山本壯太氏が閉会挨拶。「ことばは文化そのもの。文化の原点である。世界に196ヵ国・6900もの言語があると言われるなかで、日本は一億人を超える人々が一つの言語で文化を共有する特別な国である。700年前の狂言、1000年前の源氏物語、これらが日本語という一つの言語によって現代に受け継がれているのもとても珍しいこと。この特別なことば、日本語を若い世代に伝え、繋がりを大切にしていきたい」と述べ、会を締めくくりました。

子ども文化教室「京の五節句を楽しむ」

■日時・会場：1日目 令和4年8月　1日（月）13：30～14：30　立命館朱雀キャンパス1階 多目的室
：2日目 令和4年8月19日（金）13：30～14：30　立命館朱雀キャンパス1階 多目的室
：3日目 令和4年8月22日（月）13：30～14：30　冷泉家時雨亭文庫
：4日目 令和4年9月　4日（日）10：00～12：00　上賀茂神社（賀茂別雷神社）
■対象学年：小学校4年生～6年生
■主　　催：NPO法人 明日の京都 文化遺産プラットフォーム　NPO法人 京都観光文化を考える会・都草
■協　　力：株式会社響映
■参加者数：12名（小学校4年生：5名、小学校5年生：3名、小学校6年生：4名）

1日目「体験してみよう 楽しもう伝統文化」
今回の伝統文化親子教室のテーマである「五節句」について、講師の藤井久美子氏（NPO法人京都観光を考える会・都草）からお話がありました。お話のあとは、新聞紙を使って五節句にちなんで兜を作成しました。

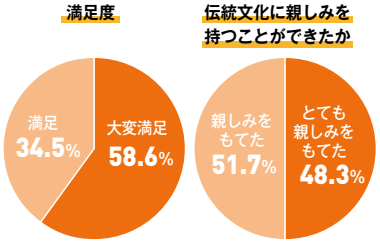
2日目「和歌を書いてみよう（練習）」
冷泉貴実子氏（公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事）の指導のもと、墨をすり、筆を使って短冊に和歌を書く練習を行いました。書き終えたあとは、短冊に書いた和歌に節を付け、詠み上げる練習も行いました。

3日目「和歌を書いてみよう（体験）」
冷泉家時雨亭文庫を会場に、歌会を体験しました。まずはお部屋に入る際の膝行や席に着くまでの振る舞いを練習。その後、歌会の本番さながら短冊を手に持ち2日目に練習した歌を筆で書き、歌を詠み上げました。

4日目「世界遺産　上賀茂神社のお話と特別見学」
上賀茂神社を訪問し、上賀茂神社の成り立ちや9月の重陽の節句に行われる烏相撲についてご神職から学びました。その後、境内をご案内いただき、参拝の作法についても学びました。

子どもたちは4日間を通して講師の方の話を非常に熱心に聞いていました。参加した子どもたちの習得はとても早く、講師の冷泉貴実子氏も驚くほどでした。和歌体験のアンケートでは、日本の伝統文化について親しみを持つことができたという回答が100%。保護者からも子どもと一緒に参加し、大人でも初めて知ることが多く大変勉強になったという感想や、今後も同様の企画を続けてほしいといった声が寄せられました。

【3日目 和歌を書く（体験）アンケート結果】



新春 子どもお茶会

■日　　時：令和5年（2023年）1月5日（木）
［一席目］10時00分～11時15分、［二席目］13時00分～14時15分、［三席目］15時00分～16時15分
■会　　場：「西陣の町家・古武」
■推奨学年：小学校3年生～6年生
■主　　催：NPO法人 明日の京都 文化遺産プラットフォーム　NPO法人 京都観光文化を考える会・都草
■協　　力：株式会社響映　京都宇治茶房 山本甚次郎
■参加者数：38名（申込者数：53名）

京町家の歴史と成り立ちについてのお話を聞いたあと、お茶席を体験しながら作法や精神を学びました。

「西陣の町家・古武」主宰の古武博司氏が、京町家の歴史と成り立ちについて、自作の模型を使いながら、子どもたちにも分かりやすく説明し、お茶席では講師が実際にお点前を披露しながら優しく指導をしてくださいました。

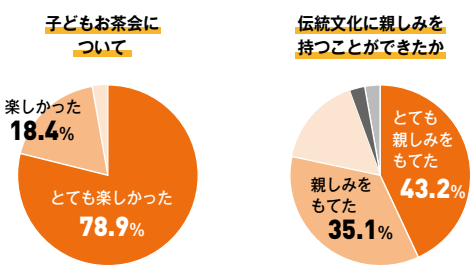
今回使用した抹茶は、「京都宇治茶房 山本甚次郎」さんの提供によるもので、お茶席が初めての参加者も美味しく召し上がりました。

会場にはお正月飾りがあしらわれ、新年を祝う花びら餅とともに体験するお茶席は子どもたちにとっても新鮮で、少し緊張した面持ちや笑顔など、様々な表情が見られました。

参加者の声

- 京都の町の歴史を知ることができた。
- お抹茶が美味しかった。
- 日本の伝統文化を知れてよかった。
- 町家建築についてのお話も勉強になり、お抹茶もお座敷できちんとした礼儀作法のもとでいただけて、とても良かった。
- お茶席だけでなく、町家のことや京都の歴史の話などを聞くことができ、身近にある文化を体験できる機会はとてもよいと思った。

【新春 子どもお茶会 アンケート結果】



京都世界遺産PBL科目

公益財団法人大学コンソーシアム京都との連携協定のもと、京都を拠点とする約45の加盟大学の学生を対象とした授業、「京都世界遺産PBL科目」を平成27年度(2015年度)から開講しています。

世界遺産を学びのフィールドに、単位互換(注１)科目として開講されるPBL(注2)科目は全国に例のないものです。令和4年度(2022年度)は11大学から約110名の学生が受講しました。

(注1)単位互換･･･他大学が提供する正規科目を履修し、自大学の単位として認定される制度。
(注2)PBL･･･Project Based Learningの略。課題解決型学習と訳される能動的学習方法。

- **講座コンセプト**　●課題解決に向けた方向性を模索し、京都の魅力を発見　●他大学学生と連携した学び
- **フィールドコンセプト**　●歴史都市･大学都市 京都で学ぶ　●世界遺産･大学など京都全体を学びの場として学生が成長する
- **人材育成コンセプト**　●多様性の理解や学びを通じて世界で活躍できる人材を輩出　●学びの経験をもとに卒業後も京都のファンとなることを目指す

＊敬称略

上賀茂神社の魅力を学生の視点で発信する
概要　開講大学：京都産業大学
担当教員：若松 正志、吉野 秋二
受入先：上賀茂神社

清水寺の△△の○○(良い点)を磨け! もしくは□□(困っている点)を救え!
概要　開講大学：立命館大学
担当教員：宗本 晋作、青柳 憲昌
受入先：清水寺

訪れたくなる、仁和寺 仁和寺の魅力を「私たち」同世代と共有する
概要　開講大学：京都光華女子大学
担当教員：朝比奈 英夫
受入先：仁和寺

価値主導型に基づく文化遺産マーケティング
概要　開講大学：同志社大学
担当教員：多田 実
受入先：元離宮二条城

京都の文化遺産とその保護 ～清水地域の防災への取り組み～
概要　開講大学：立命館大学
担当教員：大窪 健之
受入先：清水寺

最新町石研究資料を広く伝えるプロジェクト
概要　開講大学：京都橘大学
担当教員：小林 裕子
受入先：醍醐寺

大学コンソーシアム京都 京都世界遺産PBL科目
https://consortiumkyoto-tanigokan.jp/worldheritage/
受講生･関係者の声や実施科目の詳細はこちら

明日の京都インターンシップ

次世代を担う学生に当団体の趣旨を伝え、古都京都の文化遺産を取り巻く現状や諸問題に対する当事者意識を涵養することを目的としています。

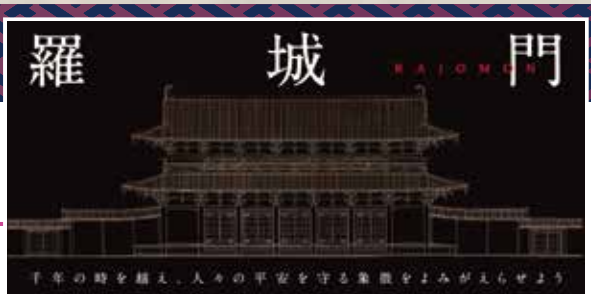
令和4年度(2022年度)は、夏期に2名、春期に1名、年間計3名の学生を受け入れました。

参加者の声　京都精華大学芸術学部3回生(参加当時)　萩野 明日香さん

これから文化財を守っていく身として貴重な現場で学ぶことができました。実際に体験する活動が多く、文化財の為に自分ができることは何かを考えるきっかけになりました。多くの方々との交流で社会人としての学びも得られ、とても有意義な期間を過ごすことができました。

新たな文化遺産の創造

羅城門の再建に向けて



大林組「季刊大林」

明日の京都 文化遺産プラットフォームは団体設立から10年を機に、令和2年(2020年)10月20日に羅城門再建の呼びかけ、その基本構想を発表する記者会見を行いました。構想を具現化するためには、事業の主体となる実行組織が新たに必要であり、個人や企業、団体に広く賛同を呼びかけ、その機運醸成に取り組んでいます。

〈平安京 羅城門十分の一模型の展示〉

平成6年(1994年)に平安建都千二百年記念事業として、宮大工をはじめ京都の職人たちの技術の粋を結集し、「平安京 羅城門十分の一模型」が製作されました。当団体は、この模型を京都駅前北口広場に移設し、展示しています。

よみがえる羅城門特設サイト
http://tomorrows-kyoto.jp/rajomon/

メディア掲載
- 令和5年(2023年)1月11日放送
  BS朝日『京都ぶらり歴史探訪 高野山と東寺 空海真実の顔』
- 令和5年(2023年)3月16日放送
  読売テレビ『かんさい情報ネット ten. 旬感中継』

令和4年度(2022年度) 主な活動一覧

令和4年(2022年)	
5月24日	第4回「平安京を語る会」羅城門復元模型解説ボランティア研修会
6月 5日	天水バケツプロジェクト　京エコロジーセンターワークショップ
6月14日	令和4年度(2022年度)NPO法人社員総会
7月 8日	令和4年度(2022年度)理事会
7月29日	天水バケツプロジェクト　同志社大学人文学研究所にて講演
8月 1日	子ども文化教室「京の五節句を楽しむ」1日目「体験してみよう　楽しもう伝統文化」
8月19日	子ども文化教室「京の五節句を楽しむ」2日目「和歌を書いてみよう(練習)」
8月22日	子ども文化教室「京の五節句を楽しむ」3日目「和歌を書いてみよう(体験)」
9月 4日	子ども文化教室「京の五節句を楽しむ」4日目「世界遺産上賀茂神社のお話と特別見学」
9月 5日	羅城門模型ボランティアガイド活動再開
9月28日	第8期インターンシップ活動報告(企画調整委員会にて)
10月30日	第12回フォーラム「日本の文化は自然の恵みから ～伝統材料・道具とそれを支える人々の未来～」
11月21日	文化遺産保存企画研究会第1回分科会
12月 8日	天水バケツプロジェクト　プロバスクラブ京都例会にて講演
12月11日	京都世界遺産PBL科目成果報告会
令和5年(2023年)	
1月 5日	新春 子どもお茶会
1月30日	文化遺産保存企画研究会第2回分科会
2月16日	明日の京都講座「西本願寺」
3月 8日 3月 9日	天水バケツプロジェクト　立命館大学金研究室学生ワークショップ
3月11日	無形文化遺産シンポジウム「笑いは和らい ～ことば遊びと狂言～」
3月22日	第9期インターンシップ活動報告(企画調整委員会にて)
3月27日	第5回「平安京を語る会」羅城門復元模型解説ボランティア研修会
4月18日	第11回世界遺産「古都京都の文化財」ネットワーク会議　※2月15日延期分

大好評の
「明日の京都講座」を
書籍化しました!!

購入をご希望の場合は、
明日の京都 文化遺産プラットフォーム事務局まで
ご連絡ください。

TEL:075-813-8166

＊敬称略

令和4年度（2022年度）明日の京都 文化遺産プラットフォーム 企画調整委員一覧

役職	氏名	所属・役職等	役職	氏名	所属・役職等
委員長	**土岐 憲三**	立命館大学特別研究フェロー	委　員	**野崎 貴典**	古典の日推進委員会 ゼネラルプロデューサー
副委員長	**高見 茂**	京都光華女子大学学長		**林 惠子**	京都ブライトンホテル執行役員 総支配人
委　員	**秋尾 沙戸子**	ノンフィクション作家		**深川 良一**	立命館大学理工学部特命教授
	池田 直史	株式会社福寿園新規開拓事業室室長		**藤森 和也**	京都府土地開発公社理事長
	井上 久明	京都市都市計画局都市景観部 景観政策課歴史的景観保全担当課長		**古田 基行**	サントリー酒類株式会社京都支店長
	烏賀陽 百合	庭園デザイナー		**本田 一泰**	羅城門復活研究会代表幹事
	大窪 健之	立命館大学理工学部環境都市工学科教授		**牧山 安弥子**	京都市文化市民局文化芸術都市推進室 文化財保護課課長
	川道 美枝子	関西野生生物研究所代表理学博士		**増井 正哉**	大阪くらしの今昔館館長、 京都大学・奈良女子大学名誉教授
	金 度源	立命館大学理工学部 環境都市工学科准教授		**益田 兼房**	ICOMOS－ICORP執行委員
	木村 忠紀	京都府建築工業協同組合相談役		**松村 明日香**	京都府文化スポーツ部文教課参事
	久下 伸	宇治市都市整備部部長		**万所 ルミ**	京都府政策企画部地域政策室参事
	栗原 祐司	京都国立博物館副館長		**村上 佳代**	文化庁地域文化創生本部事務局 広域文化 観光・まちづくりグループ文化調査官
	佐賀 裕子	株式会社響映企画営業部ディレクター		**室崎 益輝**	神戸大学名誉教授
	坂本 孝志	NPO 法人京都観光文化を考える会・ 都草特別顧問		**森島 朋三**	学校法人立命館理事長
	清水 重敦	京都工芸繊維大学教授		**森田 瑞穂**	一般社団法人 Team D.I. 代表理事
	下遠 秀樹	京都市民共済生活協同組合理事長		**矢野 桂司**	立命館大学文学部人文学科地理学専攻 教授
	吹田 直子	京都府文化スポーツ部文化政策室 政策推進係課長補佐		**山口 壮八**	京都市文化市民局文化芸術都市推進室 文化財担当部長
	杉本 歌子	公益財団法人奈良屋記念杉本家保存会 学芸部長		**山崎 正史**	立命館大学名誉教授・特任教授
	鈴木 祥之	京都大学名誉教授		**山田 登喜雄**	高台寺ひらまつ総支配人
	高橋 和男	京都府文化スポーツ部理事		**山中 博昭**	京都市文化芸術政策監
	高橋 良和	京都大学大学院工学研究科教授		**山本 一博**	京都市都市計画局公共建築部長
	土橋 聡憲	京都市観光政策監		**山本 勝己**	京都府左官業組合連合会相談役
	豊田 博一	NPO 法人京都観光文化を考える会・ 都草理事	オブザーバー	**藤本 将光**	立命館大学理工学部環境都市工学科准教授
	中嶋 茂博	京都府神社庁参事		**山田 悟史**	立命館大学理工学部 建築都市デザイン学科准教授
	長澤 香静	一般財団法人京都仏教会事務局長	アドバイザー	**山本 壯太**	元古典の日推進委員会 ゼネラルプロデューサー
	西崎 友美子	京都府文化スポーツ部文化政策室参事	事務局長	**志方 弘樹**	学校法人立命館専務理事
	西村 美紀	京都府文化スポーツ部副部長			

令和５年３月 31 日現在

明日の京都

文化遺産プラットフォーム